

九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ(K-RIP)設立10周年

「平成21年度 K-RIP 総会」開催

—「K-RIP 設立10周年記念環境ビジネス交流会」を併催—



平成21年6月18日、博多都ホテルにおきまして、会員企業約170社出席のもと、平成21年度の九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ(K-RIP)総会が開催されました。本年は設立10周年という節目の年にあたり、「K-RIP設立10周年記念環境ビジネス交流会」が総会に合わせて開催されました。

冒頭、麻生会長の挨拶およびK-RIP顧問の橘高公久九州経済産業局長、花嶋正孝(財)福岡県環境保全公社リサイクル総合研究センター長の来賓挨拶のあと、議長(環境テクノス㈱代表取締役鶴田暁)を選出し、7議案について審議し、すべて異議なく了承されました。

環境ビジネス交流会では、基調講演として、前国際連合大学名誉副学長、東京大学名誉教授で、現在は独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)理事長の安井至先生をお招きして、「持続可能な産業技術と社会」について、世界の動向と合わせて具体的で興味深いお話しをご講演いただきました。また、K-RIPが新設いたしました「第1回九州環境ビジネス大賞」の授賞式も行われ、環境・エネルギーに配慮した企業の優れた製品・サービスに優秀賞・奨励賞の授与とプレゼンテーションが行われました。



■会長挨拶

環境ビジネスの新しい風を九州から

：麻生 泰 氏【K-RIP会長、株式会社麻生代表取締役社長】



只今ご紹介いただきました九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ会長の麻生でございます。本日は、皆様お忙しい中、平成21年度総会にご出席を賜り、心より御礼申し上げます。

今年、K-RIPが平成11年11月に設立され、丁度10年目を迎える節目の年であります。この間、K-RIPを取り巻く環境は、3Rを始めとした資源循環型社会の構築から低炭素社会の実現へと高まり、全産業、全企業が環境問題を自分の問題として取り上げていかなければならない時代に突入しております。これは、見方を変えると環境・エネルギー産業の市場が拡大しており、K-RIPの会員の皆様方には「追い風」の状況が来ています。また、九州経済産業局の多大なる連携と支援があるK-RIPは、九州から世界に向けてビジネス創出の可能性が非常に高まってきていると思います。

さて、これまでの10年を振り返ると、K-RIPの活動を通じて、徐々にではありますが、K-RIP会員企業の中からも事業の全国展開や海外進出を果たす企業、技術力に対し高い評価を受けて内閣総理大臣賞や中小企業長官賞等をいただく企業も出現してきております。これも一重に皆様方の「環境ビジネスの新しい風を九州から」を合い言葉に、10年間がんばってきた成果だと思えます。そして、環境・エネルギー産業という社会的意義の高い仕事に従事しているK-RIP会員の皆様方にとって、家族や周辺の関係者に対し、胸を張って益々頑張っていたいただきたいと思います。

本日、ご審議頂きます平成21年度事業におきましては、国内の環境ビジネスの具体的案件の創出支援に加えて、これまで以上に公害防止・省エネルギー技術の「アジア展開」を重点テーマに掲げております。特に、経済発展が著しい中国においては、エネルギー消費が急拡大し、環境汚染も深刻の度合いを増しており、今まさに、私どもの問題として真剣に受け止め、環境ビジネスの国際展開と同時にアジアへの貢献を果たして行くことが求められております。

本日は、こうした環境問題に造詣の深い独立行政法人製品評価技術基盤機構の安井至(やすいいたる)理事長より、「サステイナブルな産業技術と社会」と題してご講演を賜る予定となっており、世界の動向と合わせて具体的で興味深いお話を伺えるものと楽しみにしております。

最後になりましたが、K-RIPの10年間の活動に対する皆様方と関係各位のこれまでのご協力に感謝申し上げますとともに、今後もK-RIPの発展へのご支援をお願いして、私の挨拶とさせていただきます。

■基調講演

「サステイナブルな産業技術と社会」

：安井 至 氏【独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)理事長】



昨年の洞爺湖サミットで、世界全体の温室効果ガス排出量を、2050年に50%削減する長期目標が掲げられました。気候変動の問題では、長期的視点での温室効果ガス排出量削減への道筋や考え方、地球温暖化の3層構造(純粋科学のレイヤー、経済のレイヤー、国際政治のレイヤー)という視点などを認識することから始まると思います。

持続可能な開発の歴史、長期人口予測から鑑み、更なる削減へのアプローチを強化しないといけない。また、CO₂排出量、人口減少予測、石油消費量等とGDPの関係について比較してみると日本の温室効果ガス排出量や削減方法について道筋が見えてきます。

温室効果ガス削減という点から言えば、効率・改善を2倍以上で実現する技術など「超高効率化」の視点が重要であり、つきつめて考えると日本型文明としてその極意をみだしているのが日本発のコタツです。大腿部から下を温めることによって、全身の血液を温めることが可能で、それ以外の部分に接する気温が低くても、寒さを感じることはありません。肝心な頭は低温に保つことによって、活発な脳活動を可能にしています。すなわち、「必要なとき、必要なところに、必要なこと、必要な量だけ」サービスを提供する。これが新コタツ文明であります。

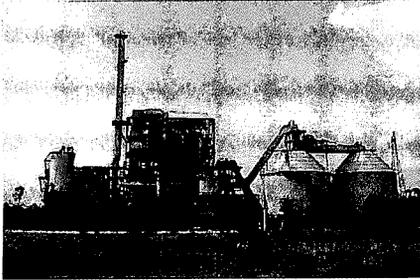
コタツの考え方と対極にあるのが、西欧的な考え方であるセントラルヒーティングです。誰もいない部屋でも冷暖房することは、豊かさだと定義しています。現代西欧文明は、電力供給網や上下水道網など全面的なサービス網の構築を前提にしていますが、これからのサステイナブルな社会形成のためにはライフスタイルや製品において「新コタツ文明」の視点が大切です。20世紀は経済拡大の右肩上がりの時代でしたが、21世紀は途中から人口減やGDP減の可能性のある山型の時代です。

今後日本の産業活力を維持する観点から、蓄電池・蓄電装置の技術向上、独自性を出すべき環境・エネルギー技術の開発が必要です。鳥瞰的な視点によって自らがガラパゴス化することを防ぎ、日本の環境・エネルギー技術をノウハウが見えない製品などとしてアジアに普及させるという戦略が必要だと思います。また、日本国内において人口減少する地域は、エネルギー、食糧のセミ自給体制などの自立戦略の視点が重要になってきます。

新コタツ文明を、まずはアジアに。そして、世界に広めることが、恐らく、日本という国にとって、使命とも言うべきことではないでしょうか。

「第1回九州環境ビジネス大賞」受賞企業の紹介

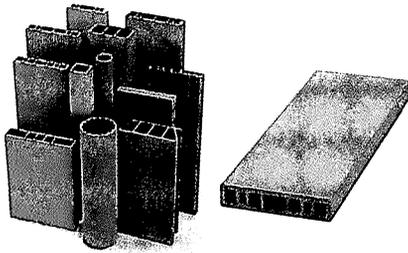
○優秀賞



「鶏糞焼却によるバイオマス発電と資源循環」

(みやざきバイオマスリサイクル株式会社、宮崎県児湯郡川南町)

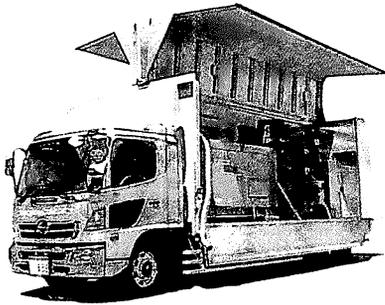
国内初となるバイオマス資源である鶏糞を燃料としてカーボンニュートラルな発電を行うと共に、焼却灰は高い濃度の肥料成分（リン、カリウム）を有する肥料原料として活用する「バイオマス発電による循環型エコシステムを事業化。地域の環境保全を図りながら、化石燃料の使用量低減とCO₂排出量削減などエネルギー問題と地球温暖化への有効な対応策となっている。



「エコMウッド『木材・プラスチック再生複合材』」

(株式会社エコウッド、福岡県北九州市)

エコMウッドは、建築現場や工場から排出される廃木材と廃プラスチックを配合した高いリサイクル性（90%以上）、そしてJIS認証取得品としての安定品質を実現。また、現在デッキに使用されている既設木材を廃棄処理せずに、原料としてマテリアルリサイクルする取り組みも実現。

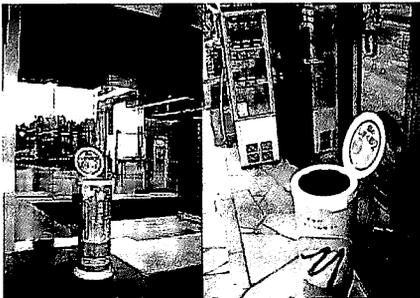


『マイクロ・イレーサー』によるオンサイトパターン除去」

(ケー・エム・テクノロジー株式会社、長崎県大村市)

マイクロ・イレーサーは、半導体工場から出る廃シリコンウェハーの表面に多くの企業機密が含まれているため、外部流出防止を解決するために、表面をはく離するプラスト装置を積載する車載式の移動式装置。処理後のシリコンウェハーは太陽電池基板としてリサイクルする。

○奨励賞



「雨傘のしずく拭き取り器『すいとるクリーン』」

(有限会社日の出、福岡県福岡市)

ビニール袋・電力を一切使用しない傘のしずく取り機器である「すいとるクリーン」。生産により発生する二酸化炭素をカーボンオフセットする取組や福岡天神地区500台設置キャンペーン等を展開。



「七色 無添加石けんシリーズ」

(まるは油脂化学株式会社、福岡県久留米市)

他のメーカーよりいち早く無添加石鹸素地に、香りや保湿成分をブレンドし「人と環境にやさしい石鹸」を開発・商品化。地域の産学官民との共同研究やコラボレーションを積極的に実施している。

■ 2009年度K-RIP事業計画

日 時	事 業 名	会 場	連 携 団 体
平成21年6月18日	役員会・総会 環境ビジネスパートナー交流会(総会と同時開催)	福岡市	
平成21年5月13日 ～6月3日	九州環境クラスター大学(若手人材育成コース)	北九州市	九州工業大学
平成21年6月 ～平成22年3月	K-RIPプロジェクト		
平成21年6月 ～平成22年3月	専門家派遣事業		K-RIPフェロー 日本技術士会など
平成21年6月9日 ～6月12日	環境産業交流事業inソウル 国際環境展示会ENVEX2009での商談会	韓国ソウル市	韓国産業団地公団 (KICOX)
平成21年8月 ～平成22年3月	販路開拓プロジェクト		
平成21年9月1日 ～9月4日	九州環境クラスター大学(産業人材育成コース)	長崎県雲仙市 ・長崎大学	長崎大学 長崎県産業振興財団など
平成21年9月	第2回九州環境ビジネス大賞 (エコテク/2009にて表彰式)	西日本総合展示場 (表彰式)	
平成21年9月24日～ (年度内3回予定)	中国環境ビジネス研究会	福岡市	
平成21年10月21日 ～10月23日	環境展示会出展支援事業:エコテク/2009 (中国セミナー・商談会を開催)	西日本総合展示場 (北九州市小倉北区)	西日本産業貿易コンベンション協会
平成21年11月27日	環境ビジネスパートナー交流会	福岡市	九州経済連合会
平成21年12月2日	九州環境クラスター大学(留学生人材育成コース)	大分県別府市	立命館アジア太平洋大学
平成21年12月10日 ～12月13日	環境展示会出展支援事業:エコプロダクツ2009		
平成22年1月19日 ～1月23日	JETRO RIT事業 「九州ー遼寧省(大連・瀋陽)環境ビジネスミッション」		JETRO福岡
平成22年2月	環境技術交流会(バイオマス)	熊本県(予定)	九州経済連合会
平成22年2月	K-RIP10周年記念誌 発刊		
平成21年4月 ～平成22年3月	エコ塾(毎月第一水曜日開催)		九州経済産業局

■ その他関連事業

平成21年11月12・13日	九州環境クラスター合同成果発表会in宮崎	宮崎県	宮崎県産業支援財団
平成22年3月19日	九州環境クラスター合同成果発表会in奄美 (産業クロスリンクin奄美)	鹿児島県奄美市	奄美市農業研究センター

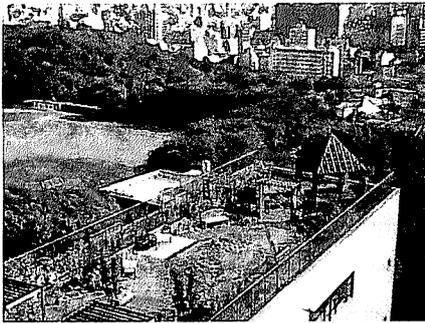
環境のニュービジネスを発掘する

K-RIP プロジェクト

K-RIPプロジェクトは、新たな環境関連プロジェクトに関する提案を公募し、採択したプロジェクトの実現に向けて、資金の一部助成や専門家による指導・助言を行う支援事業です。平成19年度からは、新たに「国際枠」を設けてK-RIP会員企業のアジア環境ビジネス展開をサポートしています。採択された事業から、国や自治体の企業向け補助金の獲得につながった事例や実際に事業化につながった事例もあります。ここでは、昨年度採択された5つの事業を紹介します。

「中国における都市緑化資材製造技術&水質浄化技術の事業化調査」

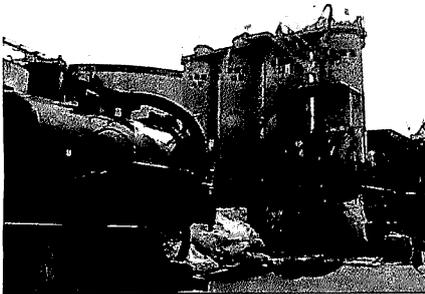
(株式会社マサキエンヴェック、長崎県長崎市)



水すまし（水質浄化製品）とルーフソイル（屋上緑化製品）のアジア事業化調査。成果として上海、青島に現地法人準備中、台湾では代理店契約が成立し、3件の実績が出ている。上海、北京にても商談中。瀋陽、上海にてOEM工場準備中。その他にもブラジル、オーストラリア、ヨーロッパ、アジア諸国からの供給ラインの確保完了。JICAプロジェクトとしてカトリックの修道会カリタス学校に菜園建設準備中。アジアだけでなく世界に向けて事業展開を進めている。

「脱硫化水素剤のグリーン・サーバイジングモデル普及のための調査研究」

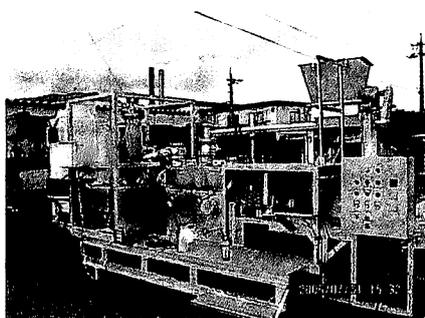
(株式会社日本リモナイト、熊本県熊本市)



使用済み脱硫化水素剤を回収・粉砕し、再生原料を製造工程に組み込むリサイクルモデルの調査研究。このシステムを構築することで自治体との委託契約をリース契約となり、安定した受注を継続できる新しいビジネスモデルを検証した。その結果、ペレット排出の課題が表面化し、「脱硫剤交換作業の標準化」、「物流の効率化」に対応した新型脱硫装置の開発に取り組んでいる。

「広範囲な燃料に対応できる汎用性の高い省エネバーナーの開発」

(竹田合同タクシー株式会社、大分県竹田市)



廃天ぷら油からBDFを製造する際に、副生産される粗グリセリンや洗浄廃水を助燃材として重油や廃油等の可燃性液体と混焼させる汎用性を持ったバーナーの開発。開発済み混焼ノズルを、既存バーナーに組み込み、既存ボイラーに容易に取り付けが可能な省エネバーナーの実証試験を行った。今後の検討課題としては、洗浄廃水で希釈による燃焼実験や排ガス濃度の測定が残されているが、農商工連携や低炭素の観点からのコミュニティービジネス的なコンソーシアム形成の支援展開が期待できる。

「中国（大連市）簡易脱硫装置事業化調査」

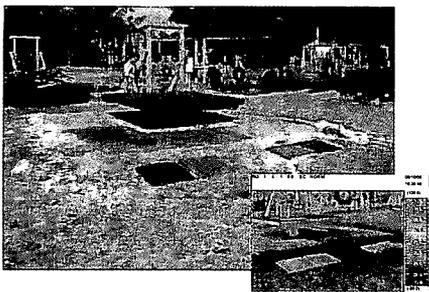
（環境テクノス株式会社、福岡県北九州市）



中国に適応した小型簡易脱硫装置の事業化検討として中国（大連市）における脱硫処理の現状調査。中国環境関連法の調査、中国国際環境保護博覧会、脱硫処理の実態調査、中国に適応した脱硫装置の検討。その結果、大連理工大学周教授と2年にわたる共同研究を締結し、大連市環保局からのバックアップを得た。

「クールアイランド舗装プロジェクト」

（木下緑化建設株式会社、福岡県福岡市）



透水性・保水性にすぐれ、ヒートアイランド抑制効果（気化熱冷却効果）を備えた舗装材の開発を九州大学や骨材メーカーと共同で行う。砂・木チップを骨材として使用したシールピール舗装材は、保水した水を蒸発させて地表温度をさげる効果が見られたが、保水性を高める配合割合についての実験が必要。また、耐久性・質感やコストなどについての検証が必要。再利用木チップを活用し、リサイクルとヒートアイランド抑制に貢献する舗装材の研究を進めている。

○本年度は以下の5つの案件の採択が決まりました。

「新プラスチック識別システムの海外展開」

（株式会社サイム、福岡県飯塚市）

「新規高性能有害物質浄化資材の商品開発」

（日鉄環境エンジニアリング株式会社、福岡県北九州市）

「CO₂を大幅に削減できるイチゴの高収益栽培」

（有限会社ナチュラルステップ、福岡県福岡市）

「輻射式冷暖房装置『ハイブリッドサーモシステム ECOWIN』の海外展開」

（株式会社エコファクトリー、熊本県熊本市）

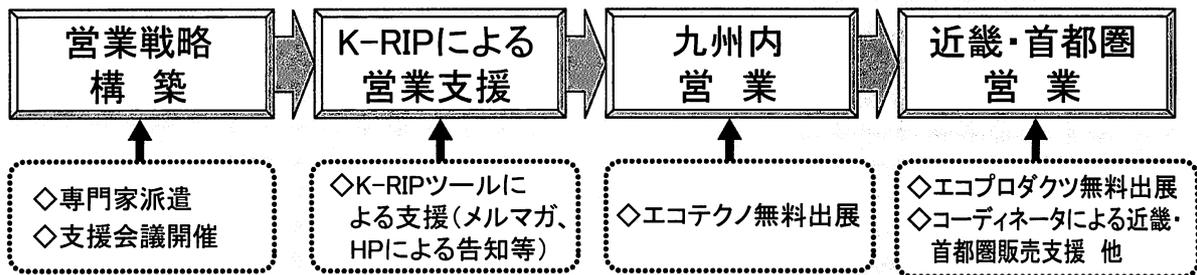
「有機性廃棄物の超高温急速可溶化メタン発酵装置の開発」

（長崎総合科学大学、長崎県長崎市）

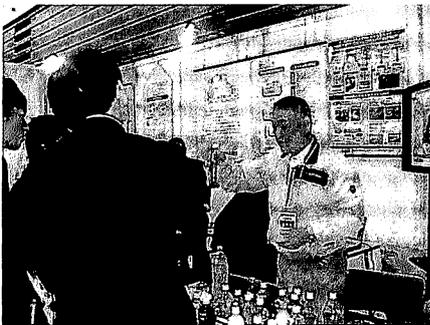
優れた環境製品をトータルにサポート

販路開拓プロジェクト

環境に配慮した製品を作ったけれど、うまく販売につながらない、新しい技術を開発したが、どうやって宣伝したらいいのかわからない。優れた環境製品を開発しながら出口である販路について悩んでいる皆さんは少なくありません。販路開拓プロジェクトでは、営業戦略構築に向けた専門家派遣や支援会議、営業戦略の組み立てから専門家による助言、全国・世界から集客のある環境展示会への無料出展、中小企業基盤整備機構のコーディネータによる首都圏販売拡大支援など、K-RIP ネットワークを活用した様々な支援を実施しています。



昨年度の事業成果



- 水質浄化剤「きよまる君」(株)柳生防水技研
- 「全開口型消音機」(株)ダイヤ空調
- 「すいとるクリーン」すいとるクリーン(株)

採択された環境製品は、NEW ビジネス環境展 in 福岡 (福岡)、クラスタージャパン 2008 テクノフェア (横浜)、エコプロダクツ 2008 (東京) の3展示会にて商談を行い、商談件数：109件、成約見込み：8件の成果がありました。商談のほかにも、展示ブースに訪れた企業から販売代理店の希望や見積りの依頼があり、採択製品の販売拡大に繋がっています。また、中には後日会社を訪問され、代理店契約を結び現在も取引を進めているところもあります。

○本年度は以下の3つの環境製品が採択されました。

「FJプラント (工業排水処理施設向け高効率酸素溶解システム)」

(株式会社ワイビーエム、佐賀県唐津市)

「エコMウッド：JISA5741木材プラスチック再生複合材」

(株式会社エコウッド、福岡県北九州市)

「有機質堆肥醗酵プラント」

(菱興産業株式会社、長崎県長崎市)

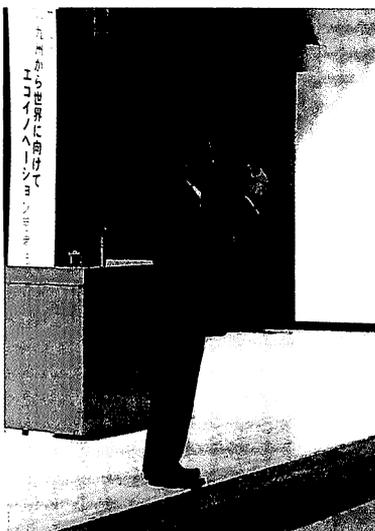
(財)九州産業技術センター、九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ(K-RIP)主催

平成21年度「九州環境クラスター大学」開講

— オープニングセミナーにて黒川清氏 (政策研究大学院大学教授) 講演 —



(財)九州産業技術センター及び九州地域環境リサイクル産業交流プラザ(K-RIP)は、次世代の環境・リサイクル産業のビジネスリーダーの育成を目的にした人材育成プログラム「平成21年度九州環境クラスター大学」を平成21年9月1日(火)～4日(金)に長崎県雲仙市国見町「遊学の里くみにみ」にて開講致しました。この人材育成プログラムはK-RIPが設立された当初から行われている事業で、当時は「エコタウン大学」として始まりました。一時期開催を中止しましたが三年前に復活し、今年で7回目を数えます。今年には環境関連産業に携わる企業、行政及び大学生32名の受講生が集い、3泊4日の泊まり込みで実務者を交えた講義・長崎の環境関連企業視察・ゼミ形式でのグループ演習等を通して、ビジネスプランの作成・発表を行いました。



(左: 黒川清氏、右: 麻生泰会長)

長崎大学で開かれたオープニングセミナーでは、経済危機克服のための「有識者会合」の低炭素・環境分野の有識者として内閣総理大臣へ意見具申された政策研究大学院大学教授(元内閣特別顧問)黒川清氏をお招きして、環境イノベーションを創出する異分野との交流や社会の在り方についてご講演いただきました。また、K-RIP会



長で(株)麻生代表取締役社長の麻生泰氏より、将来を見据えたリーダーの考え方についてお話して頂きました。

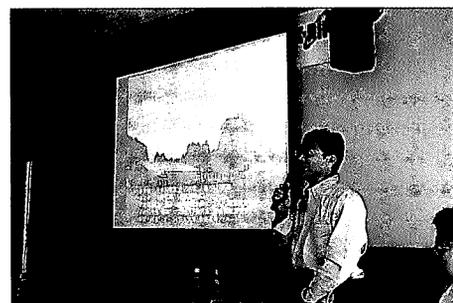
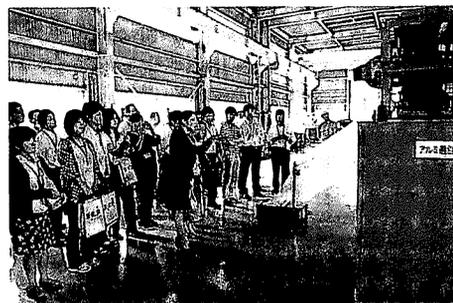
企業視察では、磁力選別機製造をしている丸中産業(株)を見学し、その親会社である三菱長崎機工(株)からは亜臨界水処理実証試験の内容を紹介していただきました。また、ケー・エム・テクノロジー(株)ではシリコンリサイクルの現場とK-RIP大賞の優秀賞を獲ったマイクロ・イレーザーを見学。資源循環や水環境改善等の研究を行っている長崎県環境保健研究センターでは、環境設備製品を設置しているサイエンスリサーチ(株) (風力発電機)、(株)マサキエンヴェック (屋上緑化) の担当者にお越しいただき、概要説明と実物を見学しながら質疑を行いました。実際に環境に取り組んでいる企業を見学できたことで、環境問題解決の難しさと同向きに取り組んでいくことの重要性を体験することができたものと思います。

また、テーマ毎の講義では大学や環境関連産業の第一線で活躍されている企業の経営者や経験者を講師及びパネラーとして招き、現場の声を聞かせることにより受講生の環境問題を解決させる意欲を喚起させることができたものと思います。

グループ演習では白熱した議論が深夜まで行われ、グループテーマに従ってビジネスプランをまとめ、最終日にプレゼンテーションを行いました。審査員としてK-RIP国際ビジネス部会長の坂田昌己氏、K-RIPビジネス創出部会の青山研一郎氏より講評を頂き、優秀なグループが表彰されました。また、各グループのコーディネーターからグループの中でよく頑張った受講生が1名選ばれ、優秀者として表彰されました。このような共同作業をすることで、受講生間のネットワークが形成され、このことが新たな環境・リサイクル産業の人材育成・振興につながるものと期待しています。

〈参加者の声〉

- 大学に通う中では絶対に経験できないような、自分の専門とは違うが環境保護に携わる社会人の方達と交流できてとても刺激を受けました。
- 年齢が上な方、同年代とグループメンバーがいて議論や会話ができたのは大変有意義でした。しかし、自分自身があまり積極的に動けなかったように感じるのに後悔しています。
- グループでの事業スキーム立案ができたことが良い経験になりました。しかし、スケジュールのつめすぎで、前の講義をよく理解出来ないまま、次へ進むので間をあけてほしい。
- お酒を交えながら、ざっくばらんに何でも話すことが出来る時間がもっと欲しい。
- 普段勉強している政策とは無縁のコミュニティビジネスを今回あえて選択したのですが、これもまた私に新たな視点を与えてくれたと感じています。



上から、企業見学(丸中産業(株))、講義(コミュニティビジネス)、グループワークの様子：2枚

平成21年度九州環境クラスター大学 カリキュラム

1日目	2日目	3日目	4日目
9月1日(火)	9月2日(水)	9月3日(木)	9月4日(金)
	グループ演習② (8:00~9:50)	グループ演習④ (8:00~8:50)	グループ演習⑥まとめ (8:00~9:50)
	講義 1 (10:00~12:00) アジア環境ビジネス ～チャンスとリスク～ (コーディネーター)北九州市立大学 国際環境工学部教授 松本 亨氏 (パネリスト) ・株式会社ワイビーエム 代表取締役会長 吉田 哲雄氏 ・環境テクノス株式会社 代表取締役 鶴田 暁氏 ・協和機電工業株式会社 代表取締役社長 坂井 秀之氏 昼食 (12:00~13:00)	講義 1 (9:00~11:00) CO ₂ 排出削減ビジネスの 今後の展望 (株)リサイクルワン 取締役 本田 大作氏 企業視察 (バス) (11:10~18:30) 昼食 (12:00~12:50)	グループ演習発表 (10:00~12:00) (審査員) ・麻生鉱山株式会社 代表取締役社長 坂田 昌己氏 ・三井物産株式会社 地域戦略室室長 青山 研一郎氏
	講義 2 (13:00~15:00) 環境コミュニティ・ビジネス (コーディネーター)滋賀県立大学 環境科学部准教授 鶴飼 修氏 (パネリスト) ・長崎大学 環境科学部准教授 深見 聡氏 ・社会福祉法人ふるさと 統括部長 北島 淳朗氏 ・株式会社トップライン 専務取締役 中村 えい子氏	13:00 ①丸中産業(株) ／資源リサイクル選別装置 14:30 ②ケー・エム・テクノロジー(株) ／シリコンリサイクル 15:40 ③長崎県環境保健研究センター ／資源循環・水環境改善等 (株)マサキエンヴェック ／屋上緑化 サイエンスリサーチ(株) ／風力発電	審査 (12:00~12:15) 表彰式 & 閉校式 (12:15~13:15) 親睦交流会 (13:15~14:00) 14:00 解散 (※バスで諫早駅・大村空港へ送迎)
13:30 長崎大学集合 オープニングセミナー			
開会挨拶 (14:00~14:10) 長崎大学学長 片峰 茂氏			
来賓講演 (14:10~14:20) 九州経済産業局長 橋高 公久氏			
特別講演 (14:20~15:30) 九州から世界に向けて ～エコイノベーション思考法～ 政策研究大学院大学教授 黒川 潜氏	講義 3 (15:10~17:00) バイオマス燃料事業構築の課題 ～燃料と需要の確保～ (コーディネーター)鹿児島大学 農学部准教授 寺岡 行雄氏 (パネリスト) ・みやざきバイオマスリサイクル 取締役工場長 武津 利男氏 ・株式会社フチガミ 管理課長 檜橋 保氏 ・株式会社TRES 代表取締役社長 松野尾 淳氏		
特別講演 (15:40~16:20) 九州から世界へ ～次世代の九州リーダーについて～ K-RIP会長 (麻生代表取締役社長) 麻生 泰氏	【環境バイオマス総合対策調査】 (17:00~17:30)		
バス移動(遊学の里へ)	夕食 (18:00~19:00)	夕食 (19:00~20:00)	
オリエンテーション (18:30~19:00) ・諸注意事項説明			
親睦交流会 (19:00~21:00)	グループ演習③ (19:00~22:00)	グループ演習⑤ (20:00~22:00)	
グループ演習① (21:00~22:00) 顔合わせ & 発表テーマ検討			

グループ演習

コーディネーター

- | | |
|---|---|
| A グループ「アジア環境ビジネス」担当
B グループ「環境コミュニティビジネス」担当
C グループ「バイオマスリサイクルビジネス」担当
D グループ「CO ₂ 排出削減ビジネス」担当 | ・北九州市立大学国際環境工学部 松本 亨 教授
・滋賀県立大学環境科学部 鶴飼 修 准教授
・鹿児島大学農学部 寺岡 行雄 准教授
・株式会社リサイクルワン 本田 大作 取締役 |
|---|---|

環境ネットワークと学びの場「エコ塾」

— 毎月第1水曜日開催 —

環境が全国的な取り組みになった昨今において、新たな技術や製品がこれまでにないスピードで開発され、世の中に出ています。また、インターネットで最新の情報は得ることはできますが、それ以上の深い内容、知りたい欲求には顔を合わせた場が必要です。エコ塾では九州経済産業局と連携し、環境分野の人的交流・企業間交流の活性化を目指して、環境に対する取組のプレゼンテーションと、立食形式の交流会を行っています。これまで、エコ塾をきっかけとして新たなビジネス展開につながった企業もいらっしゃいます。毎月第1水曜日は「エコ塾」へ！

(詳しい日程についてはメルマガやホームページで案内致します。)

第23回エコ塾

平成21年4月17日(金)

『環境を支援する化学分析・解析技術紹介』

○日鉄環境エンジニアリング株式会社 箭内 朋子 氏

環境負荷や資源・エネルギーの消費低減に向けて、負荷物質を選択的に高感度で検出することや低減に寄与できる成分の特定と化学的挙動の解明には、化学分析・解析が不可欠である。「環境」というキーワードは、私たちの日常生活から地球規模まで幅広く、そこでの様々なトラブルの原因究明や分析手法の提案と確立などを支援する化学分析の事例を紹介していただいた。



『明るい省エネ～企業のコスト削減と環境社会貢献を両立するエコ時代のライティングシステム～』

○テスコ・エコライティング株式会社 落合規晶 氏、大曲倫寛 氏

効率よく光を反射させることにより小さな光源で大きな照度が得られるTDDLエコ・ライティングシステムの紹介。器具自体の発熱量も少なく空調負荷にも良い影響を与えるため、消費電力の削減によりCO₂の排出量も減少でき、企業のコスト削減と環境社会貢献を両立するこれからの時代が求める環境にやさしい次世代型の照明器具である。

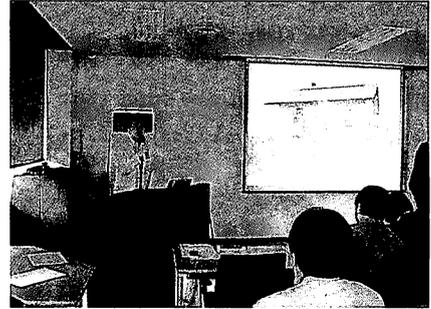


第24回エコ塾

平成21年5月13日(水)

『省CO₂住宅の最新事情～自然エネルギー利用のトップランナーを目指すエコワークスの事例より～』 ○エコワークス株式会社 代表取締役社長 小山 貴史 氏

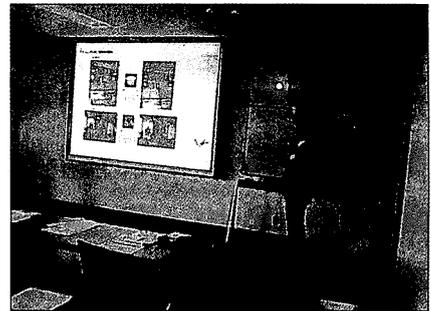
太陽光発電の爆発的な普及が見込まれる中で、太陽光発電だけでなく、太陽熱、地冷熱など、様々な自然エネルギーを住宅内で利用するための提案を行っている。また、住宅の建設時の省CO₂を目的として、SGEC 森林認証材や天然乾燥材の活用を進め、地域に根ざした住宅会社として循環型社会の実現につながる住宅づくりに取り組み、大野城モデルハウスは国土交通省の地域住宅モデル普及推進事業として採択された。



『LEDでコスト削減とCO₂削減』

○エクセレートジャパン トータルディレクター 占部 健努 氏

配線、回路を改良して従来のアルミのフィンを使用しないことで価格の大幅ダウン、軽量化に成功した超省エネ蛍光灯。1本あたりの利益も大きく今現在蛍光灯を長時間つけている会社、オフィス、工場、学校、役場、看板、外灯、間接照明、看板の中など取り換えもいなくなり電気代も4～6分の1以下まで落とすことが可能です。



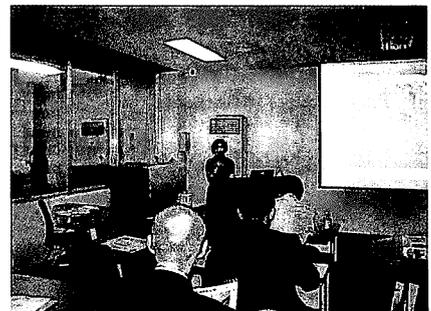
第25回エコ塾

平成21年6月3日(水)

『知恵と工夫で生活を洗う』

○有限会社フリーマム 代表取締役 青松 瑛子 氏

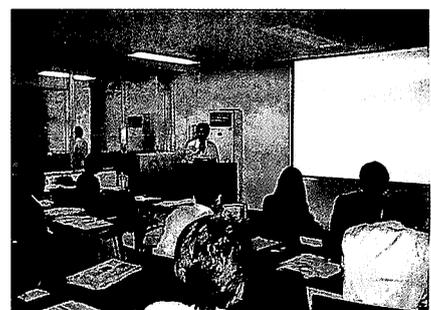
フリーマムでは毎日の生活に欠かせない日用品に着目、重曹の衣類洗濯洗剤「イオン・パウダーソーダ」をはじめ、天然成分の消臭・除菌・抗菌・防カビスプレー「アクアミスト」とウィルス対策にも高い効力を持つ除菌・抗菌スプレー「ディリーミスト」を展開している。全ての商品は天然成分100%で、フリーマムの看板商品として、また快適な生活を送るための必需品として定評がある。



『卵殻を利用した、わかりやすいリサイクル製品の製造・販売』

○株式会社 グリーンテクノ21 代表取締役 下 幸志 氏

割卵業者から排出される卵殻は年間8万トンと言われており、約80%は膨大な費用をかけて処分されています。この卵殻に着目し、全国の割卵業者から排出される卵殻を利用して、ランド用の白線、チョーク、ロジンバック、壁材を開発し商品化しました。今後も「環境」・「エコ」がパフォーマンスだけに終わらないように、「分かりやすいリサイクル」を基本に商品開発を行います。



低炭素社会に向けて、アジアとつながる見本市

エコテクノ2009開催のご案内

—九州環境ビジネス大賞表彰式・発表会を開催—

西日本最大規模の環境見本市「エコテクノ」が今年も下記の日程で開催されます。今年は「エコ・イノベーション ～サステナブルソサエティの到来～」をテーマに、地球環境時代にふさわしい環境保全・エネルギー技術が一堂に集まります。

K-RIP ではオープニングに合わせて、九州環境ビジネス大賞の表彰式を開催するほか、中国遼寧省環境ビジネスセミナーや近畿環境クラスター合同発表会などを予定しております。また、中国ミッション団との商談会、国際環境ネットワーク団体交流会もありますので、ぜひこの機会に環境ビジネスの輪を広げてみてはいかがでしょうか。

□エコテクノ 2009【地球環境・新エネルギー技術展&セミナー】

期間：2009年10月21日（水）～23日（金） 10:00～17:00

会場：西日本総合展示場新館（北九州市小倉北区浅野3-8-1：JR小倉駅から徒歩5分）

※詳しくはエコテクノ2009ホームページをご覧ください。

■九州環境ビジネス大賞表彰式

期間：2009年10月21日（水） 11:30～11:40

会場：西日本総合展示場新館 エコテクノセミナー会場 A

■九州・中国環境ビジネス導入セミナー

期間：2009年10月21日（水） 13:00～17:00

会場：北九州国際会議場 国際会議室

■中国遼寧省環境ビジネスセミナー

期間：2009年10月22日（木） 10:30～12:30

会場：北九州国際会議場 国際会議室

■九州環境ビジネス大賞発表会 及び 近畿環境クラスター合同発表会

期間：2009年10月23日（金） 13:00～15:30

会場：西日本総合展示場新館 エコテクノセミナー会場 B

【Kyushu Recycle and Environmental Industry Plaza】(K-RIP)

九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ (K-RIP) 事務局



Industrial Cluster Project
産業クラスター計画

〒812-0013

福岡市博多区博多駅東2丁目13-24

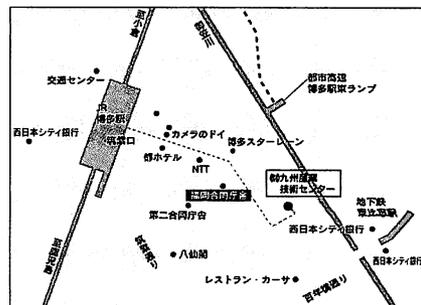
(財)九州産業技術センター内

TEL 092-474-0042

FAX 092-472-6609

URL <http://www.k-rip.gr.jp/>

e-mail info@k-rip.gr.jp



平成21年10月発行